



ひきよせ

発行所
 天理教夕張大教会
 〒068-0029 北海道
 岩見沢市9条西6丁目21
 ☎ 0126-22-1248
 FAX 0126-23-7275
 yubaridai146@gmail.com
 ホームページ
 bariten.main.jp



LINE 友達登録
 お願いします

2月25日
 回廊ひのきしん

2月26日 教祖殿前の梅

10歳だった少女を思う

東日本の震災から15年経つ。発生から一ヶ月後、災害救援ひのきしん隊北海道第一次隊として宮城県東松島市へ入り、公民館の復旧にあたった初日、私ともう一名の隊員は駐車場の片隅で一人の少女と出会った。瓦礫と木の枝を取り除いたその場所に、少女は下向きに横たわり、静かに眠っていた。

公民館からは抽選箱やお菓子の景品が見つかった。紺色のパーカーとジーンズをきちんと着ている姿が可愛らしく、ついさつきまで元気に遊んで、疲れて眠ってしまっただけ。やがて目を覚ましてくれるだろう。そんな綺麗な子だった。どうしてこんなに冷たくなってしまったのか…。悲しみが言葉にならない。やがて少女は優しく丁寧に救い出され、探し続けていた御両親の元へ帰る事が出来た。

冷たかったね。怖かったね。寂しかったね。たすけられなくてごめんね。
 同じ年、親神様と妻のお陰で、長女がこの世界に生まれて来てくれた。温かく、愛しい我が子を抱き、冷たくなってしまった少女を思い出す。私はあの子を忘れない。今年15歳になる娘を見つめ、あの子の分も生きてくれと願う。いつか娘と共に、おたすけの御用がしたい。それが自分の夢となった。
 大教会長 藤田大和

立教189年 3月28日 午前10時式典



#328 みんなでおちぼへ

教祖140年祭
 学生おぢぼがえり大会

夕張学生会日程

日時：3月26日 15:00 集合
 29日 9:00 解散
 集合場所：夕張詰所

式典および前夜祭参加、直属アワー、その他お楽しみ行事を計画しています。記念すべき「教祖140年祭学生おぢぼがえり大会」に、仲間と一緒に参加しましょう！

立教189年 全教一斉
 ひのきしんデー
 4月29日(水祝)



お近くの会場は「教区・支部情報ねっと」でご確認いただけます

お知らせ

月次祭 4月15日(水) 9時30分

教祖ご誕生祭 4月18日(土)

婦人会第108回総会 4月19日(日)

全教一斉ひのきしんデー 4月29日(水祝)

二月月次祭の様

2月に入って大分気温が上がり、例年よりも各地の雪解けは早いようであった。祭典前日の14日には青年会員が集い、日中はひのきしん、夜には麻雀大会が行われ、賑やかに月次祭前日を過ごしていた。迎えた15日も気温は高めで、珍しく大屋根の雪も全て落ちていた。日曜日ということもあり、道内各地から、多くの参拝者が大教会に集まった。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。

講話に先立って、1月16日に出直された、中右喜久雄理喜道分教会長の霊に、全員で黙とうを捧げた。

講話には岩佐善昭准役員が立ち、その後、大教会長はいさつで「この度の年祭の活動中、ご存知の通り、前大教会長様の大きな節をお見せいただきました。皆様方も教会で、またそれぞれの個人のお付き合いの中でも、色々な出会いもあれば別れもあったのではないかと思います。

一つ自分なりに悟らせていただくと、一人の方の命の区切りと

いうのは、親神様からすれば『そこに関わる人々を一步前へ進めてあげよう』という親心が込められているのではないのかなと思えます。先月の理喜道さんのことでもそうだと思います。教会の芯となる会長の節、そこに見せられたご守護というのはその家族、信者一同の心を一つに集め、真剣な、必死なおつとめをしてほしいという教祖からのメッセージであると、教祖のお計らいであるというように感じるんですね。私はこの3年間で、自分自身も命がけの気持ちになつて人に助かつてもらいたい。そういうおつとめをするというのを教えられた気がします。

今年一年間は、おちばに帰る一年にしたいと思えます。夕張大教会は、皆さんでそれぞれに力を合わせて、この一年間で、多くの方が夕張詰所に宿泊していただいております。おちばに帰れるように、つまりおちばに帰る、とは神殿へ行くことですね。ちばへ日頃のお礼を申して、教祖殿で教祖に日頃のお礼を申し上げる。そして神様、教祖からまた魂にするしをつけてもらう。自分が、子供が、孫が生きていることをお礼させてもらって、そしてまた印をつけてもらって帰るんです。可愛い子供が帰ってきた

らお土産と小遣いをあげて返したのが親の心ですから、目には見えなくても教祖が小遣いを持たせてくれます。

それが良い運命となつて自分の家に帰つてから良いことが起きてくるわけです。これを信じてるわけです。だから今年1年間、おちばで皆さんにお会いしたいなと思つております」と話された。また、来年に迫つた夕張大教会創立130周年の概要を発表され、そこへ向かつて、一同の心を寄せる事をお願いされた。また、『たすけ一条 つとめ一条』と書かれた、年祭の記念品である、真柱様の御揮毫を披露された。

祭典後には役員室にて、創立130年に向けた役員会議が行われた。また、女子青年のコーヒーショップも開店し、参拝者は温かいコーヒーで心も体も温まっていた。



2月15日 詰所遥拜式

いつどこでどんな花が咲いてくるのかを楽しみに

志加ノ谷分教会長

岩佐善昭



三年千日の心定め、私はにいがけをさせていたどうかと決めました。大教会で月に一度にいがけの日を設け、教区にも『やまびこ会』という布教を志す方々の会活動がごさいます。そのやまびこ会にも、月に1度。基本的には月に2回ほど、大教会近辺と、教務支庁の辺りと、にいがけをさせていただきました。

しかし、当たれど当たれど、ただただ断られるというような日々が続き、大きな成果もなく終えようとした、昨年12月25日です。一件の電話が夕張詰所に入りました。

それは初めておちばがえりをして、私と同じ年の男の方で、おばあちゃんの遺骨を豊田山舎に納めたい、との事でした。詳しい話を聴くために詰所まできてもらいました。その方のおばあちゃん、熱心な仏教徒の家に嫁いだことで、お道の信仰を大っぴらにすることは出来なかった。しかし、孫であるその方だけに、よくお道の話、とくに教祖の話聞かせてくれて

いたそうなんです。そのおばあちゃんが出直してから、きつとおちばに帰りがたかっただろうな、と思ひ、おばあちゃんの遺骨と共におちばへ帰つてきた、ということなんです。よくよく話を聴くと、その男性は岩見沢に住んでいた時期があったり、私の名刺を見せたら、『私の夕張にある老人介護施設で働いてたことがあります』っていう話が出てきて、非常にお互いに共通点が多くて、こんな出会いもあるんですね、と驚きました。さらに話を聞いていくと、実は私は天理教の信仰がしたいんです、修養科に是非入りたいたいです、つて言うんです。修養科に入ること、は急な話だったので叶わず、その方の丹精は、これからつとめてまいるらいたいと思ひます。

この話でお伝えしたいのは、にいがけをすることで、全然違うところで花が咲く、実が生ること、とは、こういう形であるんだ、本当に無駄というものはないな、と。いつどこでどんな花が咲いてくる

のかということ、分からないんだなということ、感じました。

1月20日夜、私のおばさんからLINEがありまして、信者さんの男性が非常に危ない状況にあるという一報でした。重度の肺炎になっ

て肺が真っ白な状態だということでした。正直、今日1日も分からない、とのこと。その時にふ

と思い浮かんだのが、1月15日の大教会長の神殿講話でした。おたすけに行く前に、おつとめをさせて

いただこう、とその話を思い出して、私はその夜の9時から、翌

日の午後におたすけに向かうまで、夜中の12時までに3回。そして、翌朝起きてから昼までの間に3回。計六回のお願いをさせていただき

ました。そして、21日の午後、病院に向かいますと、酸素マスクをして色々な管を通して、その方はいらつ

しゃいました。普通の酸素マスクだけでは十分な酸素供給ができないから、半強制的に酸素を送り込

むような仕組みになっていたんだろうと思います。それがもう私には、なにより辛そうに見えました。

それを使っているせいか、全く寝られないらしいんですね。だから約2日間その方は寝ていなかった

とお伺いをしました。私は真剣に

おたすけをさせていただいて、教会に戻りました。その日の夜に、おばさんが私に再び電話をくださ

いまして、『やはり、かなり厳しい状況が続いている』ということでした。

私は23日におちばに向かう予定



でした。もしかしたらおちばに帰ることも難しいかもしれない、と考えましたが、できることはお

たすけとおつとめしかない、と思っ

て、21日の夜もなんとかご守護い

ただきたいとお願いをしました。迎えた22日。昼から入院先の病

院に行きました。すると前日は強制的に送られていたはずの酸素マ

スクが、普通のマスクをしてなんとか呼吸ができる状況が変わっており

ました。おちばに比べて、肺炎の症状は緩和をしているように見

えました。前日の夜からだんだん呼吸が楽になってきて、昨日は寝

ることができたんだ、と聞かせて

いただきました。これならなんと

か、と思いついて、23日におちばに向かわせていただきました。

その方は札幌から毎月欠かさず、志加ノ谷の祭典に何十年と通い続

けてくださった方です。これほど理を作る、ということの尊さはな

いのだなと、いうことを改めて感じさせていただきました。

私は24日から26日まで本部の輸送部でひのきしんをさせていただけ

ました。本部から少しだけ離れた教庁という建物におりましたの

で、神殿の近くに行くことはなかったです。年祭の活気というの

はそれほど感じないまま26日を迎えて、そのまま年祭を終えたとい

うことです。年祭を終えてから、何か非常に充実感に欠ける、モヤモヤするよ

うな心持ちになりました。自らの年祭活動、年祭に向かうそれまで

を振り返った時に、どうだったのかという思いが、自分の中で答

えが見つかっていなかったんだろ

うな、と今なら思うわけです。このままでは何か区切りがつか

ない、と思いついて、神様に参拝、その後

に教祖殿に行きました。教祖に年祭活動を無事に終えたこと、本日

の年祭を無事に務めさせていただけ

たこと、にをいがけに一つの実

ができたこと、年祭前に大きなお



たすけが一つ御守護いただけたことを、お礼を申し上げた後に、教祖殿に座って教祖にお伺いをしま

した。『私の3年間どうだったでしょう？』

私はこの信仰に、時折こういった感動をいただくことが、非常にありがたいと感じております。

我々人間に対し、常に子供の成人を思い、お守りくださり優しく慈し

み育ててくださる、そういった存在が人間には誰しもあるんだ、

というように、この信仰は教えてくださっていると思います。

そしてそのありがたさ、感動というものを、いかに私はこの信仰を通じて感じていけるかが、大事だ

と思っております。やはり『神様』というのがあります。信仰と

いうのはありがたいな、信仰というのがあります。信仰と

いうのはありがたいな、信仰というのがあります。信仰と

いうのはありがたいな、信仰というのがあります。信仰と

おぢばでの学びを糧に
修養科一〇一三期修了
松尾大介(継立)

修養科に入って感じた事は、教理の事やおふでさき、八つのほこり、おつとめ、お手振りと色々学びましたが、自分自身一番身に染みて感じた事は、親神様からの引きです。

自分自身から修養科を志願し、一度入ると決めた修養科でのおぢばの生活、三ヶ月の間、地元での出来事に何度も帰ろうかと、迷いましたが、その都度考え直して、今帰れば、もうおぢばへ帰って来れなくなるかも、一度自分で修養科へ志願した心定めが、親神様との約束が違える事が達成できなくなる、そこで、親神様と自分と何度も心の中で問答しました。

そんな中、修養科同期との出会いで、それぞれ環境は違えど色々な境遇の中真剣におぢばで学ぼうとする教友と出会い、心穏やかに



勇んで修養生活を送る事が出来ました。

今地元へ帰って、家族や友達近くの信者さんに少しでも、おぢばで学んだ、人さんの助かり、喜ぶ姿を自分の喜びとして、少しでも教祖のひながたを、心において、生活しています、修養科での学びを糧に日々結構に通らせて頂きました。

少年会

鼓笛練習

2月21日、夕張大教会で鼓笛練習会を開催。少年会員5名、育成会員4名の計9名が参加した。この日は、全員がファイフの練習。簡単な曲であればある程度吹ける



ようになってきた上級生組に負けじと、下級生組も一生懸命に取り組み、時折悔しさをにじませながらも、それを乗り越えてメキメキと上達していった。昼食には、照り焼きポテトチキンにチーズをのせ、大満足の一品に少年会員たちもご満悦。午後からも、再び練習に励み、最後に感謝を込めて、片付けひのきしんを行って解散した。



災害救援ひのきしん隊
冬季平時訓練実施

2月9、10日の両日にわたり、天理教災害救援ひのきしん隊南支支部隊【竹田元隊長(馬追分)】は冬季平時訓練を実施し、隊員15名、婦人会7名の計22名が集まり、夕張からは、隊員7名、婦人会3名が参加した。

この訓練では、例年三笠市社会福祉協議会と連携して、三笠市内独居老人宅などの除雪作業を行っ

ているが、支部内は近年まれにみる降雪量の少なさで、三笠市も例外ではなかった。しかし、その中でも除雪困難である住居もあり、作業にあたった隊員たちは生かされて、ひのきしん精神を持って作業に励んだ。また、宿营地となった夕張大教会では、9日夕食にお鍋やバイキング形式の夕食がふるまわれ、あたたかくおいしい食事に、隊員たちは一日の英気を養って翌日のひのきしんに備えた。



庶務部 2月

- ▽教会長資格検定講習会 2・27、中右浩太郎(理喜道)
- ▽おさづけの理拝戴
- 立石航大(祝梅) 2・5
- ▽おまもり 2件
- ▽詰所教養掛
- 3月 藤田好道(幌部)【詰所当番】
- 4月 藤崎勇(旭部)

大教会日誌抄 2月

- 1日 たすけ推進会議、役員会議
- 9日 南空知支部災害救援訓練、10日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 19日 会長夫妻、札美分月次祭
- 23日 会長、おぢばへ
- 24日 会長、本部神殿当番、直属教会長御招宴
- 26日 本部月次祭、遙拝式
- 27日 会長夫人、おぢばへ
- 27日 会長、かなめ会
- 27日 会長夫人、本部婦人会例会
- 28日 会長夫妻、帰会

にをいがけ実動について

◇活動報告
 日時：2月28日 10時～13時
 場所：岩見沢市内
 参加人数：1名
 内容：神名流し、戸別訪問(30件)

年祭活動の一環として、実施して参りました「にをいがけ実動」は、今回の報告を持って一区切りとさせていただきます。本活動に、ご賛同、ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。(岩佐善昭)